



NO. 181

# 響音 (ひびき)

発行 チャイルドライン ハートコール・えひめ  
〒790-0808 松山市若草町 8-2  
松山市ボランティアセンター気付  
Tel 089-923-9558 Fax 089-916-9710  
E-mail heart-call@kke.biglobe.ne.jp  
<https://heart-call-ehime.jimdofree.com/>  
発行責任者 染川まどか  
発行者 染川まどか  
編集者 三好久恵

## 受け手のための継続研修

◆1月20日(日) 10:00~12:00

松山市総合福祉センター5F 中会議室 参加者 12名  
司会進行: 継続研修担当スタッフ

### テーマ 新旧交流会

第23期受け手養成講座で新しい受け手5名を迎えることが出来、新旧交流を開催しました。自己紹介を兼ねての今年の抱負、希望を発表し、その後は二人一組になってお互いに相手を褒めちぎりました。(皆さん元気になりました。肯定感上昇!)そして電話をとっての新しい方の感想や現受け手の経験談で大変盛り上がりました。あっという間の2時間でした。(研修担当)

◆2月4日(日) 10:00~12:00

松山市総合福祉センター5F 小会議室 参加者 15名  
講師: スタッフ

### テーマ 「共感は愛?!」みんなで考える研修

継続研修へのご参加、ありがとうございました。次回へ向け、さらに勉強したいと思います。さて、未曾有の出来事から2ヶ月が経とうとしています。被災直後、40歳位の男性が嗚咽しながら「何もかも失いました。オレ悪い事しましたか?」と泣きじゃくっている映像が流れました。彼の悲痛な思いは計り知れないものがあります。人は悲痛な体験が大きければ大きい程、心の中にその出来事を受入れる事が出来ません。無理とは分かっているけど排除しようとしています。でも彼の気持ちを無条件に受け止め、共に悲しみ、そして時間はかかりますが、薄紙を1枚1枚剥がすように繰り返していけば、きっと受入れられる日が来るように思うのです。私達の活動はそのセロハン紙程の薄い紙を1枚剥がす事。いや、ピンセットで剥がし口を探し、少し持ち上げる事の後押しかもしれません。とても地味な活動です。こんな地味な活動を続けて行けるのは何故なのか?それは「愛」、母が子を思う見返りを求めない「無償の愛」が私達の心根にきっとあるからだと思うのです。(研修担当 K.O)



## 【感想】

・共感から始まって自己一致という難しい内容でしたが、用意してもらった図式プリントは分かりやすかったし、それぞれ自分なりに納得した自己一致について話をしてもらい、私自身の頭の整理が出来たように思いました。(M.I)

・共感するという事はこんなことだったなあと改めて感じられる温かいテーマでした。その人に寄り添い心から共感することが出来れば、自然と関係も築けて、いい結果を得られると実感出来ました。電話を取るときもこうでありたいものだと思います。(K.K)

・まずは電話で「話そう、話したい」と思って、電話をかけてきてくれたことに感謝から始まることを自覚することだと思います。少しだけ寄り添って、自分の問題を整理する手助けが出来たらいいと思います。(N.S)

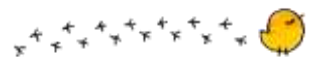
・自己一致、すごく難しいけど皆さんのお話をきいてとても参考になりました。毎回学びになるので、研修に参加するのが楽しみです。(K.W)

・自己一致、難しいなと感じました。ただ聴くというのは出来たとしても、その先の展開を自分をもって行けられるのか、どう返したらいいのかと、いつもチャイルドラインでは思っています。(S.I)

・出席して皆さんの思いを聞いて良かったです。とてもいい勉強になりました。今日もいい日。(I.I)

・自己一致は子どもが最終的にそうなればいいと、それまでの間として、子どもへ共感して聴ければいいなあと思いました。(Y.T)

・自己一致難しいですね。でもチャイルドラインは聴いて、聴いて「そうね」と子どもたちに言ってあげられるように出来たらいいなと感じています。(M.O)

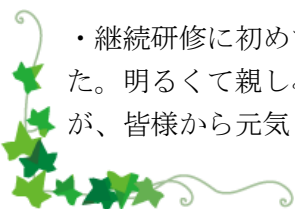


## 【第23期の方々の感想】

・初めて電話を受けてみて

最後「聞いてもらってありがとうございます」といっていただき一安心でしたが、受話器をおいたあとガタガタしそうでした。途中から支え手さんが一緒に聞いてくださり「沈黙の間」を教えていただきました。二分が長くて、長くてびっくりで、いかに待てないかを自覚しました。初心忘れず受けさせていたいただきたいです。(K.K)

・継続研修に初めて参加させていただき、相談員20名の方と初顔合わせの機会になりました。明るくて親しみやすいばかり。チャイルドラインをすることがドキドキだったのですが、皆様から元気と勇気をいただきました。よろしく願いいたします。(I.I)



## チャイルドライン支援センター2023 全国研修に参加して



2023年12月9日 東京

基調講演

「子どものSOSに気付いていますか すべての子どもの聴かれる権利が保障される社会に」

講師：甲斐田万智子氏（NPO 法人国際子どもの権利センター代表理事）

・1日目の講演会とシンポジウムでは、子どもの権利を守るには先ず、大人である私たちが変わっていく事が大事であるということを改めて思いました。2日目の分科会ではワークショップで各地の方々と運営の取り組み方などを話し合ったり、ロールプレイで受け手の練習を試みたりと、ちょっと緊張しましたが、他地域のチャイルドラインの方々と交流が出来、とても充実した2日間を過ごせました。（J.H）

・全国研修に行かせていただいて、全国にたくさんの方が子どもの声を聴いておられて、多くの方が関わっていることを肌で感じられたことが収穫でした。お話を聴いた中で、一つお話させていただくと、パネルディスカッションで校則改革により、制服から私服にした学校が実際に自由になったものの、みだれていないという話がありました。大人の思い込みにより、社会は変えられないと思っている結果、なかなか校則改革も進んでいない学校が多いとのこと。私自身、子どもに限ったことだけではなく、大人同士の関係でも言えますが、自分の思い込みで動くのではなく、様々な声に真摯に向き合い、気持ちを受け止めていくことの大切さを強く感じた研修でした。今年から新しくボランティアに参加されている方もいると思います。

新しく始めたから気付くこともあり、当番で会うことがありましたら、その気付きを確認し、自分も軌道修正しながら、子どもの声を聴いていきたいと思えます。貴重な研修に参加させていただき、ありがとうございました。（S.K）

## 第2回中四国エリア研修会に参加して

2024年1月23日（ZOOM）

「当事者・経験者が求めるアドボカシー～チャイルドラインにできること～」

講師：金山さよ氏（子どもアドボケイト派遣センター広島理事）

金山さよ氏は、子ども時代に社会的擁護の経験者・体験者として、児童相談所・一時保護所・児童養護施設での経験を、できるだけ当時の子ども目線でお話ししてくださいました。

・社会的擁護の現場である児童相談所・一時保護所・児童容疑施設等がいかに大人の都合・大人目線で子どもの支援がなされているか、当事者である子どもの意見や子どもの視点を知らない、考えようもしない私たち大人の問題でした。そういう意味でも、当事者として子どもの代弁者として、当時の苦しくつらい体験、勇気をもって語っていただいたことは大変貴重なお話でした。私たちは真摯に受け止め、まず大人の都合で「子どもに良かれと思って」作ってきた社会的擁護の支援の現状を子どもの声を聴き実態を知ることから始めるべきだと痛感しました。アドボケイトの必要性和チャイルドラインにできることをあらためて考えさせられました。

（N.S）

## ハートコール・えひめの20年 パート10



「ハートコール・えひめの20年」は今回で最後とさせていただきます。  
毎回読んでくださってありがとうございました。

子どもの声が聴きたい、何を考え、何を求め、何をあきらめ、何を訴え、何を怒り、何を望んでいるのか教えてほしいと始めた活動です。人の話を聴くとはどういうことか、たくさん模索しました。子どもの話を聴いて、聴いた私たち大人は何をなすべきか、たくさん悩みました。ひとつだけ、自立援助ホームを立ち上げることが出来たことは幸いであったと思っています。子どもに寄り添い一人じゃないよと伝え続けること、子どもの状況を発信し続けることがこの活動の役割ですが、まだまだ足りないところが多々あります。このことを肝に銘じこれからも継続して活動していきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 編 集 後 記

今年度をもちまして代表を交代することとなりました。名前だけの、頼りない代表を、皆様よくぞ今まで支えてくださいました。感謝しかありません。22年間たくさんの方々にお会いし学ばせてもらいました。何よりたくさんの子どもたちから色んなことを教えてもらいました。これは私の宝です。

新しい代表でハートコール・えひめは若返りますので、これからも今まで以上にご支援をよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。ちなみに私はこれからも微力ながらほんの少しだけ、関わらせていただきます。(染)

